

科目名・単位数	税務会計演習Ⅰ 2単位	科目分類	財務会計系	応用・実践科目
配当年次	2年次・春学期・昼・夜	担当教員	うえまつ きみお	
履修形態	選択必修		上松 公雄	
授業概要	<p>税務会計は、財務会計における当期利益を前提とし、法人税法に基づいて法人税の課税標準である所得金額を適正に算定するための会計である。</p> <p>本講義では、適正な所得金額計算のあり方を明確にすることを目的とする。そのために、税務会計Ⅰ及びⅡにおいて研究したことを踏まえ、事例研究を通じて、受講生自らの問題意識の下で、法人税法上の各規定、制度、取扱いの意義、必要性について検討する。</p>			
到達目標	税務会計の基本原則及び所得金額の計算構造を理解し、さらに、自らの見解を確立すること			
授業方法	オンライン授業（オンデマンド型）を行う。授業においては課題＝税務会計上の事例（担当教員が提供する）を研究、検討し、その結論及び根拠、考え方について受講生から報告、回答書の提出を受け、メール等による質疑応答を通じて、双方向性を確保する。教室での対面授業の開始後、受講生による報告発表及び討論を合わせて行う。			
事前・事後学習	報告発表のための準備としての事前学習が必要となるが、さらに、事後学習として、各回の課題・テーマと報告、発表の内容に関して復習されることを望む。 配布資料（報告者による資料を含む。）について再読すること。			
成績評価の方法	講義時間内に実施する課題レポートの水準に対する評価 60%、講義や報告発表、討論への参加、取組み方、疑問点を検討する姿勢などで 40%の評価とする。			
フィードバックの方法	提出されたレポートの返却は行わないが、課題については講義時間内に要点の確認整理を行う。			
履修上の注意	研究は、報告発表を行えば終わるのではなく、自らが「足らざる」と感じた点や他者から示された疑問点などを検討、考察することで深耕されていくものと心得ていただきたい。			
授 業 計 画				
第 1 回	<u>内容</u> : 総論 <u>概要</u> : ガイダンス 事例研究を行うことの意義・目的を明確にする。 研究対象となる事例内容の確認。			
第 2 回	<u>内容</u> : 事例研究 <u>概要</u> : 事例 1 の検討（事例案は参考例。以下同じ。） （事例案）従業員の不適切な行為によって生じた損失に対する税務会計上の論点			
第 3 回	<u>内容</u> : 事例研究 <u>概要</u> : 事例 1 に対する報告発表			

第 4 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 2 の検討 (事例案) 売残り商品 (食品) を従業員に無償支給した場合の税務会計上の論点。
第 5 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 2 に対する報告発表
第 6 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 3 の検討 (事例案) 臨時ボーナスを支給する場合の税務会計上の論点。
第 7 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 3 に対する報告発表
第 8 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 4 の検討 (事例案) 役員等の範囲を巡る税務会計上の論点。
第 9 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 4 に対する報告発表
第 10 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 5 の検討 (事例案) パワハラ被害に対する解決金を支払う場合の税務会計上の論点。
第 11 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 5 に対する報告発表
第 12 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 6 の検討 (事例案) クラウドファンディングによる資金を受け入れた場合の税務会計上の論点。
第 13 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 6 に対する報告発表
第 14 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 7 の検討 (事例案) すでに退職した役員等から報酬の一部返納を受けた場合の税務会計上の論点。
第 15 回	<u>内容</u> :事例研究 <u>概要</u> :事例 7 に対する報告発表
テ キ ス ト	
参 考 図 書	『現代税務会計論 (第 3 版)』、2020 (予定)、中央経済社。 『租税判例百選 (第 6 版)』有斐閣